

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572300081		
法人名	三雲ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム三雲		
所在地	滋賀県湖南市三雲ナガレ69		
自己評価作成日	平成25年1月19日	評価結果市町村受理日	平成25年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野洲川の近くで近所には桜のきれいな公園があり静かな環境の中で生活しています。又、夏には国道を挟んで少し小高い会社からのきれいな花火を眺めることができます。利用者様の笑顔があり、家庭的雰囲気があります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2572300081-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年2月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは法人理念の基、利用者やホームの現状に合った目指す方向性を職員間で話し合い、利用者の尊厳や笑顔、自立支援などを盛り込んだ独自の目標を掲げています。気候の良い時期は日々近隣への散歩や地域行事などへ出かけたり、外出が難しい季節はホーム内で体操など、積極的に体を動かしてもらい、利用者の身体機能を維持できるよう支援に努めています。利用者が重度化する中で、職員は玄関の段差にスロープを手作り、車いすの方も外出しやすいよう工夫したり、意向に沿った看取り支援にも取り組み、家族や医療関係者などと話し合いを重ねながら支援してます。自治会はホームに対する理解が深まり始めており、地域の一員として総会や自営消防団などへ参加を予定しており、地域との良好な関係づくりに取り組み始めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を職員全員で案をだし、一番取り組んでいけるものに決め、共有している	法人理念の基、ホームとしての方向性を職員間で話し合い、目標として掲げています。目標はその時々々のホームの現状や利用者の状況などに合っているかを確認し、必要な見直しを行いながら、日々の支援が理念や目標に沿ったものとなるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りやサロン等に参加している	町会に加入し、回覧板や民生委員から地域の情報を得て、地域の夏祭りや公民館で行われる高齢者の集まりなどに利用者と一緒に参加し、交流の機会を持っています。地域の総会や自衛消防団への参加依頼の声掛けがあり、参加を予定するなど、交流のきっかけ作りに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでホームの状況をビデオなどで様子を報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれの意見については検討の後、取り入れている	会議は利用者や家族代表、自治会長や民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。ホームの報告やビデオを用いて日頃の取り組み状況などを見てもらい、意見交換をしています。地域との関係性についてアドバイスをもらったり、地域サロンへの参加の声掛けをもらい利用者と参加するなどサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の担当の方とは密に連絡を取っている	介護保険などに関する疑問点などがあれば気軽に出向いて相談したり、手続きなどで出向いた際には、声を掛け合うなど良好な関係を築いています。ホームの実情や課題も知ってもらっており、相談や助言をもらいながら運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において話している	会議などで身体拘束や施錠することの弊害などについて話し合い、職員が理解できるよう分かり易く伝えていきます。夜間以外は出入り口の施錠は行わず、出かけた方には職員が付き添って出かけ、利用者の自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	その都度話し合いをし、防止に努めている		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで学ぶ機会を持ちたいと思っているがなかなかできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安、思いを聞き、説明し理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設け、又、面会時などにも聞いている	家族が面会に来られた際には意見を出してもらいやすいようコミュニケーションをとったり、毎月の報告や利用者の様子を伝える際にも意見や要望が無いか働きかけています。日頃から意見を出しやすい雰囲気作りに努めていますが意見は少ない状況であり、開設10周年の記念行事の際には個別に意見を聞く予定にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常的に意見や提案を聞いている	職員の意見や提案は職員会議の際や日々の業務の中で聞いています。利用者の重度化に伴い、職員の意見を取り入れて玄関アプローチの段差解消の為にスロープを設置し、車椅子がスムーズに移動できるよう改善するなど、職員の意見を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配分しやってもらっている。職場環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の運動会などで交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人の思いや状態をくみ取り職員間で理解をもって共有し、徐々に慣れていただけよう気を配っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴しながら一般的な質問にならないよう話し易い雰囲気づくりに気をくばっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で検討し、必要なサービスをていきょうしている。日々の変動も考慮に入れ対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が重度化してきており身体介護が増えている中、共に過ごし支え合うバランスが難しくなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何不自由ない施設の暮らしであっても「家族の絆」に代わるものはないことを家族にも伝え理解を得るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所するところでの生活があり支援するまでには至っていない。面会者には来所しやすい対応に努めている。	友人や親類がホームに会いに来られた際は、記憶が薄れている利用者に関係を説明して仲を取り持ったり、居室へ案内しゆっくり気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮するなど、以前からの関係を大切に継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が自分の思いを発言できる雰囲気づくりに努め、個々の持てる生活力も認め合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去はほとんど特養への移動なので相談や支援のニーズはないが状況に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の体調や思いに沿い生活支援している。困難な方は家族の意向や本人の表情をよく見て、職員間の意見を交換し検討している	日々利用者とコミュニケーションを取る中で思いが把握できるよう努めています。把握が困難な場合は利用者の表情などから汲み取ったり、家族からも情報をもらい、カンファレンスで本人本位に話し合い、職員間で情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所により生活の変化もあるが、コミュニケーションを密に個々の生活を大切に支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と話し合いながら自立支援を基本に一人一人の持てる力を見極め、過剰な介護にならないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や意向をくみ取りながらカンファレンスは職員全員で参加し、話し合い、家族への連絡や報告、意見などを伺いケアプランに活用している	介護計画はサービス担当者会議を開催し、ケアマネジャーや職員などで利用者や家族の思いや意向を汲み取れるよう意見を出し合い、作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを実施して計画の見直しを行い、入院などで利用者の状態に変化があれば再アセスメントを実施し、随時介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を活用し職員間の申し送りや情報を共有することで細かな気付きも見られケアの実践やケアプランに反映できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心地よい暮らしができるよう家族とも話し合い協力合っている。個々の希望に応じた社会参加に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活かすために努めてはいるが日々の忙しさに忘れられていないことが多い		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは定期の往診時に状態報告し気になる点は随時報告し情報交換と助言を頂いている。良い信頼関係も築けており、看取りについても思いを共有できている	入居の際に以前のかかりつけ医を継続できることを伝えていますが、現在は全員の方が定期的に往診が受けられるホームの協力医に変更されています。歯科などの外部の専門医への受診は職員が付き添い、個々の希望の医療機関に受診支援しています。協力医や専門医とは随時情報交換を行い、適切な医療を受けられるよう連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の細かな気付きや服薬状況など常に連絡、相談し、出来る限り迅速な対応を心掛け、支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病棟に状態を尋ねたり、担当NSより連絡をもらうなど情報交換している。出来る限り早期に退院できるよう事前指示書を提出し、意向に沿えるよう働きかけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	クライアント全員の家族と話し合いを持ち、お元気な時から事前指示書を書いていただき、定期的に見直している。看取りについては関連本などを全員で読んだり勉強会など行っている	入居の際に看取り指針に基づいて、ホームの対応できる範囲について説明し、状態に変化があれば延命などについても再度確認を行っています。家族や看護師など関係者で今後の方針や支援方法を話し合い共有しています。入浴が困難となった利用者は、清潔が保持できる方法を関係者で話し合うなど、希望に沿って自然な形で支援できるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の際に勉強会を開き、疾患や薬、応急手当の方法や、蘇生方法などを実践してもらい助言、指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練等行っているが地域との連携が取れているとは言えない	年2回消防署の指導の下、利用者と一緒に避難訓練を実施し、食器棚などには地震に備えて耐震対策を施しています。地域の自営消防団へ参加の声掛けがあり、地域で行われる防災訓練に参加を予定し、地域との連携の在り方や協力関係作りに取り組む予定としています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格や好みを理解し、職員間で情報を共有するなどして言葉かけや対応に生かしている	利用者を尊重し、個々に合わせた声掛けや対応を心がけています。不適切な対応や声掛けなどが見られた場合は、職員間でその場で注意し合ったり、職員から報告を受けた管理者が利用者を尊重した対応について職員に分かり易く伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクレーションや食事など出来る限り本人の好みや希望を活かせるよう日々努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由時間にはハーモニカを吹いたり、昼寝をしたり、散歩に出掛けるなど個人の時間やペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなど極力努めているが着替えなど介助しやすい服装を選んだり、職員都合になっている部分もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や好みなど、職員全員が把握し、出来る方は食事の準備に積極的に参加していただいている	献立は冷蔵庫の食材を見て肉や魚、野菜などのバランスを考え、献立が重ならないよう利用者と相談しながら決めていきます。利用者は食器やテーブル拭きなど、できることに積極的に携り、職員は同じ食事を共に摂り、団らんの時となるよう支援しています。レストランで自分で好きなものを選んで食べてもらう外食なども取り入れて楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など、一人一人一日の摂取量をチェックし、把握できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後出来る方は行っているが毎食後、全員出来ているとはいえない		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を利用し個々の排泄を把握し、個人に応じた排泄の支援を行っている	排泄記録を参考に一人ひとりの排泄リズムや習慣を把握して、トイレで排泄できるよう声掛けをかけたリ、誘導しています。ほとんどの方がトイレで排泄されており、夜間紙パンツにパットを使用される利用者も日中は布の下着にパットで過ごしてもらうなど、できるだけ長く布の下着で過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を利用し排便の周期を把握し、飲み物や食事を工夫するなど努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく個人のタイミングや希望を聞いているが、拒否の強い方などは意思を尊重できているとはいえない	入浴は午前から午後3時頃までの間で希望を聞きながら入ってもらい、毎日の入浴も可能です。肌の状態に合わせて入浴剤を使ってもらったり、頂き物のゆずや菖蒲で季節湯を楽しんでもらっています。入浴を拒む方は、入ってもらいやすい職員が声を掛けたり、時間や日を変更するなど工夫しています。今後は人員体制が整えば夕食後にも支援したいと考えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は自由に過ごしていただき、自分のタイミングで就寝できるよう声掛けなども行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しているつもりだが副作用など全て把握できているとはいえない。薬の変更などの際は日誌を利用し情報の共有に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行えるよう努めているが、日常の業務の忙しさに職員でしてしまうことも時々ある。楽しみ事や気分転換は出来る限り行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の体調や力を理解し、気候なども考慮してなるべく外出の機会を作っているが、地域の方との交流などは少ない	気候が良い時期は日常的に近隣の公園などに散歩に出かけています。イチゴ狩りなど季節ごとの外出や年に数回は普段は行けない遠出を企画し、楽しんでもらっています。また外食に出かけたり、地域の行事や催しなどにも利用者と一緒に出かけ、外出の機会が多く持てるよう努めています。	

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など持っていただくことは時々あるが基本施設でまとめて預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に連絡が取れるようにしているが家族の意向によって断られる時もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙などに考慮し、またトイレや浴室など分かりやすいよう札を出したり、居心地の良い空間づくりに努めている	ほとんどの利用者が日中はリビングで過ごされており行事の写真を飾ったり、ソファを配置し、利用者に居心地良く過ごしてもらえるよう配慮しています。利用者は昼寝の際などは、エレベータを利用して自由に2階の居室へ行き来されており、2階廊下の一角に置かれた椅子は、利用者の休憩などに利用されています。ホーム周辺は自然豊かで、四季折々に季節を感じながら、家庭的な雰囲気の中で過ごしてもらえるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間で気の合う方に隣に座っていただいたり時には間に入って話が盛り上がるように努めている。季節に応じてクッションやソファ、ひざ掛けなども利用していただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔やってきた趣味やこだわりが何時でもできるよう、すぐに手にとれるように置いておき利用していただく	全室畳の居室は、できるだけ入居前の自室をそのまま再現できるよう家族と相談し、仏壇やこれまでに使っていた家具や三面鏡、洋裁をしていた方は古いミシンなどを持参されています。テレビや電話を置くことも可能で、利用者が安心して過ごし易いよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋食準備は各自ができることをやっていたり、包丁を使用していただく場合も横で見守りつつ支援を行っている		